

(振興局調整費)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	企画振興班	穴戸 昭子	0184-22-5432	被災地・避難者元気アップ事業	東日本大震災の県内避難者について、借上住宅での暮らしが続く中で、引きこもり等が問題となっているため、地域住民とのふれあいの機会や避難者同士の交流の機会を設ける必要がある。	42,100	直営	①じゃがいも掘り体験：避難者13名参加 ②避難者交流会：避難者36名参加	県	東日本大震災被災者	平成25年5月27日	震災後から、管内避難者等の交流会を継続して開催しており、回を重ねるごとに避難者同士の交流が深まっている。	避難者同士の交流が深まる一方、参加者が固定化してきており、こうした交流会への参加等がない避難者に対して、どのようにケアしていくかが課題である。避難者支援室とも連携のうえ、今後の事業の在り方を検討する必要がある。
						平成25年7月12日 平成25年8月8日									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	企画振興班	長瀬 孝	0184-22-5432	ものづくり人材育成支援事業	由利地域は電子デバイス等の集積地であるが、管内高校生の就職に関して、県内・管外就職率の低下や製造業離れが進んでいるため、これらの改善を図る必要がある。	105,765	直営	①ものづくり企業インターンシップ事業：3社に対し、高校生3名が参加。 ②就職支援セミナー講師派遣：4回実施、高校生450名が参加。	県	高校生	平成25年5月27日	①、②ともに、参加生徒から就職への理解や関心が高まったという意見があった。①については、過去の参加生徒がインターンシップ時の受入企業に実際に就職したという実績もあった。	①については、参加生徒の増加が課題である。参加生徒の増加のため、実施時期や実施方法等について、各校の進路指導教諭と相談のうえ改善していく必要がある。
						平成25年6月～ 平成26年3月									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	鳥海まると観光班	佐藤 友哉	0184-22-5432	鳥海高原エリア観光道路ネットワークに関するパンフレット作成事業	鳥海山麓の周遊を促進するため、鳥海グリーンラインや高原の駅情報、周辺観光情報を記載した観光パンフレットを作成。	289,800	直営	・観光パンフ15,000部作成・配布	県	地域住民	平成25年5月27日	由利本荘市・にかほ市両市の周遊道路案内や観光情報をまとめて記載してあるパンフレットが無かったため、施設や関係団体、旅行者から便利であるとの評価をいただいた。	道路マップに日浴道や国・県道からのアクセス部分に交差点看板の情報を追加するなど、主要道路からグリーンラインへ誘客するための情報を適宜追加していくことが必要。
						平成25年6月11日～ 7月19日									
農林部	赤川 淳美	農業振興普及課	産地・普及班	佐藤 智則	0184-22-7551	「北限のいちじく」で地域を挙げて取り組む6次産業化推進事業	いちじくの北限の産地として、栽培面積の拡大、生産量の向上、新商品開発、販路の確保等により、地域を挙げた6次産業化を推進する必要がある。	374,177	直営	①にかほ市大竹いちじく(1・2・9)の日まつりの開催	県	にかほ市内いちじく生産者	平成25年5月27日	生産意欲が向上し、平成26年春に1,500本以上のいちじく苗が新しく定植された。	いちじく生産振興の継続と販売対策の支援が必要である。
						平成26年1月29日									
福祉環境部	伊藤 善信	環境指導課	環境・食品衛生班	金 和浩	0184-22-4120	鳥海湯けむりほっと安全・安心事業	観光資源の一つである温泉からのレジオネラ感染症発生を防止するため、施設の衛生管理の徹底を図るとともに、併せて入浴客のマナー向上に努め、観光客等利用者の満足度向上につなげる。	346,190	直営	・衛生管理研修会 1回 ・施設の衛生管理指導及びレジオネラ菌検査 36施設 ・入浴マナーリーフレットの配布 36施設	県	旅館業及び公衆浴場事業者	H25年6月30日	・研修会によりレジオネラ症発生防止の必要性が理解できたとの意見があった。 ・施設の衛生管理指導及びレジオネラ菌検査により、ほとんどの施設で改善が見られた。 ・4か国語の入浴マナーリーフレットの掲示により、外国人からの理解も得られたとの意見があった。	一部の施設で改善は見られたが、レジオネラ症防止のためには、さらなる改善が必要ことから、引き続き実施し、利用者の安全・安心確保に努める必要がある。
						平成25年9月1日～ 平成26年3月10日									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	企画振興班	長瀬 孝	0184-22-5432	シーズンを通じた鳥海観光振興事業	環鳥海地域で行われる各種イベントにおいて、由利地域のシンボルである鳥海山とその山麓地域(環鳥海地域)の魅力をアピールし、観光振興を図る必要がある。	163,875	直営	①鳥海山麓地域のPR用ののぼり旗等を作成し、各種イベントで活用した。 ②鳥海山シートウサミットに、管内の団体のメンバーで秋田県選手団を編成して参加し、環鳥海地域のアピールを行った。	県	住民一般	平成25年5月27日	鳥海山シートウサミットについて、秋田県選手団にスポットを当てた10分超のコーナーがABS秋田放送でテレビ放映されたほか新聞の記事にも取り上げられ、環鳥海地域のアピールを行うことができた。	環鳥海地域のアピールについては、継続的に徐々に行い徐々に知名度をアップさせていく必要がある。
						平成25年6月～ 平成26年3月									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	企画振興班	長瀬 孝	0184-22-5432	地域資源発掘・活用検討事業	民俗芸能が地域の活性化に寄与する可能性を検討等する場とした知事と県民の意見交換会において、参加者の意見交換を促進するため、民俗芸能の実演等を行う必要がある。	60,000	直営	8月8日に行った知事と県民の意見交換会において、国指定重要無形民俗文化財であり、管内を代表する民俗芸能である本海獅子舞音楽の実演と解説を行った。	県	民俗芸能関係者	平成25年7月1日	管内を代表する民俗芸能の実演を経たうえで、知事と県民の意見交換会を行うことができたため、より具体的な話し合いをすることができた。	民俗芸能を地域振興に活用していくためには、当該芸能の関係者と行政等との更なる情報、意見交換を行っていく必要がある。
						平成26年8月8日									
福祉環境部	伊藤 善信	健康・予防課	健康・予防班	熊谷 政子	0184-22-4122	由利地域心の健康づくり・自殺予防街頭キャンペーン	広く住民に対し、心の健康づくりや自殺予防についての正しい理解と各種相談窓口の普及啓発を図る。	108,833	直営	12月1日の「いのちの日」3月1日の「秋田県いのちの日」に因み、普及啓発用グッズを配布した。配布場所 羽後本荘駅、イオンスーパーセンター本荘店、ピフレにかほ	由利地域心の健康づくり・自殺予防ネットワーク	地域住民	平成25年10月10日	キャンペーン終了後チラシをみたという電話や相談につながるなど、相談窓口の普及効果があった。	今後もあるゆる機会をとらえ繰り返し普及啓発活動を継続していく。
						平成25年11月29日～平成26年3月5日									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	企画振興班	矢野 昭子	0184-22-5432	由利本荘市土砂災害対応事業	平成25年11月21日に由利本荘市矢野の市道「猿倉花立線」で発生した土砂災害への対応のため、急遽必要となった物品があったことによる。	4,465	直営	土砂災害の現場への派遣職員へカイロを配布するとともに、被害者世帯への見舞金給付のためののし袋を購入し、使用した。	県	災害現場への派遣職員、災害被害者世帯	平成25年11月25日	災害対応に必要な物品を購入し、使用することができた。	災害対応のため必要な物品は、別途予算を確保し、予め準備しておくべきである。
						平成25年11月21日～11月24日									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	企画振興班	長瀬 孝	0184-22-5432	先進NPO活動調査事業	地域活動ステップアップセミナーの内容を充実させるため、講師との打ち合わせを行う必要がある。また、管内NPOの活動促進に繋げるため、先進的な取組を行っている当該講師の所属団体の活動内容等の把握を図る。	42,914	直営	福島県郡山市において、NPO法人うつくしまNPOネットワークの事務局長とセミナー開催に係る打ち合わせを行うとともに、当該法人等の視察を行った。	県	NPO等	平成25年12月24日	地域活動ステップアップセミナーの内容についてアンケートを採ったところ、参加者の86.2%が「非常に良い」又は「良い」との回答であった。	資金や活動人員の確保など、管内NPOが課題としている事項は他にも多々あり、これらの解消を図るため、かたろサロンゆりの継続実施や各種セミナーの実施を図る必要がある。
						平成26年1月9日～1月10日									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	鳥海まるっと観光班	佐藤 寿之	0184-22-5432	「食・農・観」連携推進による地域ブランド確立成功事例調査事業	「食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業」に係る当地域の実施団体の今後の取組をフォローアップするため。	103,070	直営	・都内地域ブランドセレクトショップ及び他県アンテナショップの事例と傾向についての現地研究。 ・「食・農・観」連携推進による地域ブランド確立先進成功事例の研究。	県	観光関係者	平成26年2月3日	地域団体が目指す食品加工品の地域ブランドづくりに関して、首都圏市場の具体的な事例を示しながら意見・助言ができたことで、当該団体等への適切なフォローアップが出来た。	事業最終年度の地域ブランドの本格リリースに向け、タイムリーな助言・情報提供及び、よりきめ細かなフォローアップが必要。
						平成26年2月20日～2月21日									
総務企画部	長門 俊夫	地域企画課	鳥海まるっと観光班	佐藤 豊弘	0184-22-5432	スポーツツーリズム構築研究事業	スポーツツーリズムの推進による地域間交流の活性化、地域ポテンシャルの有効活用を目指す地域団体の取組をフォローアップを図るため。	13,300	直営	スポーツツーリズム先進地である新潟県十日町市スポーツコミッションの取組状況について現地研究を実施。	県	地域住民	平成26年2月3日	スポーツツーリズムの先進地の取組の実情を把握できたことで、スポーツツーリズム推進に取り組む地域団体等への適切なフォローアップが出来た。	スポーツツーリズムを本格化するため、その推進母体となる地域プラットフォーム設立に向かうこととなることから、さらなるフォローアップが必要となる。
						平成26年3月3日～3月4日									